

J127a **MAXI J1957+032 の発見と MAXI が検出した 2015 年度前半の突発現象**

根来 均, 中島基樹 (日本大学), 芹野 素子, 三原建弘, 松岡 勝 (理研), 上野史朗, 富田 洋, 中平聡志 (JAXA), 兼藤聡一郎, 坪井陽子 (中央大学), 河合 誠之 (東工大) ほか MAXI チーム

全天 X 線監視装置 MAXI は、この春、2018 年 3 月までの運用延長が認められ、2015 年春季年会以降も多くの突発現象を検出し、6 月 15 日の時点で MAXI チームから The Astronomer's Telegram (ATel) に 5 つ、The Gamma-ray Coordinates Network (GCN) に 8 つの報告を行った。また、MAXI と Swift/BAT の公開データを用いて、ブラックホール候補天体 H 1743-322 (Zhang et al. ATel 7607) や GS 1354-64 (Miller et al. ATel 7612) の再増光の報告など、海外の研究者らによる ATel への報告や Swift ToO も頻繁に行われるようになった。

5 月 14 日には、INTEGRAL と独立して (IGR J19566+0326, Cherepashchuk et al. ATel 7506)、新天体 MAXI J1957+032 が発見され、報告した (Negoro et al. ATel 7504)。5 月 11 日から 2 日間、MAXI の検出限界近くの 8-10 mCrab で観測され、その後、急激に減光しており、その正体はまだわかっていない。また、ブラックホール候補天体 XTE J1856+053 の再増光 (ATel 7579)、4U 1850-08 から Eddington 光度を超える約  $6 \times 10^{38}$  erg/s の X 線バースト (ATel 7500)、そして、Be パルサー GX 304-1 と GRO J1008-57 の Type-I アウトバースト (Nakajima et al. ATel 9441, 9490) も検出し、ATel に報告した。

GRB に関しては、2015 年春季年会以降、4 月の 5 つを含む 8 つの GRB を 6 月 15 日までに検出した。この半年で、すでにこれまでの年間の最大数 12 を超える 15 つの GRB を検出しており、延長が認められた今後でも十分な成果が期待できる。講演では、これらの MAXI がこの半年間で検出した突発現象のうち、主に ATel や GCN に報告した内容について報告する。